



2018年6月25日

## AUDI AG、インゴルシュタットにてエアタクシープロジェクトを支援

- ドイツ インゴルシュタット地域において、政治及び産業分野のパートナー企業とともにエアタクシー試験運用を開始
- AUDI AG 暫定取締役会会長アブラハム（ブラム）ショット「バーティカルモビリティは、人々の時間を節約し、大気環境の質を向上させます」

2018年6月20日 ベルリン／インゴルシュタット：アウディは、3次元のモビリティを実現しようとしています。6月20日の午後、ベルリン連邦首相府において、政治及び産業分野から構成されるパートナー企業が、今回のプロジェクトに関する同意書に調印しました。これを受けて、AUDI AG 暫定取締役会会長兼セールス&マーケティング担当取締役のアブラハム（ブラム）ショットは、ドイツ連邦運輸大臣のアンドレアス ショイヤー、デジタル化担当大臣のドロテー ベア、エアバス最高技術責任者（CTO）のグラツィア ヴィッタディーニ、インゴルシュタット市長のクリスティアン ルーゼル及びその他の政治経済界の代表者とともに、アーバンエアモビリティ プロジェクトをインゴルシュタットで開始したことを発表しました。このEU共同プロジェクトの目標は、インゴルシュタット地域においてエアタクシー試験運用のモデルケースを構築することです。

ショットは次のように強調しています。「コネクテッドカー、電気自動車、そして自動運転車は、都市交通をより快適でクリーンなものにし、スペースを節約します。つまり、都市に住む人々の生活の質が向上することを意味しています。今回、試験運用に着手する3次元モビリティは、都市の未来にとって重要な役割を果たすことになるでしょう。私たちは、このプロジェクトがインゴルシュタットで実施されることを歓迎するとともに、エアタクシーの試験場として、地域の発展を支援したいと考えています」3月に開催されたジュネーブモーターショーでは、エアバスと、AUDI AG 子会社のイタルデザインが、水平移動（自動車）と垂直移動（パッシェンジャードローン）を組み合わせた電気自動車の自動運転コンセプトカー、“Pop.Up Next”を発表しています。

ショットは次のように述べています。「アーバンエアモビリティプロジェクトを通して私たちが目指していることは、アウディが持っているノウハウを活用して都市生活を改善し、都市や人々のさまざまなニーズに対応する新しいモビリティコンセプトを開発することです」遠い将来、“Pop.Up Next”のようなコンセプトが、大都市の道路や上空で、人々を素早く快適に輸送し、都市交通の問題を解決することになるでしょう。

アーバンエアモビリティプロジェクトは、欧州連合が推進しているスマートシティ及びコミュニティ（SCC）政策において、ヨーロッパイノベーションパートナーシップ（EIP）と呼ばれるEUイニシアチブを、市場へと導入する取り組みとして行なわれます。またプロジェクトの宣言書には、ハンブルクやジュネーブといった他のヨーロッパの参加都市が行なっている、EUイニシアチブの第1フェーズについても言及されています。

※本リリースは、AUDI AG 配信資料の翻訳版です。